



Title	Commitment and Strategic Firm Behaviour
Author(s)	大西, 一弘
Citation	大阪大学, 2001, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/42265
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 ＜a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed >大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	おおにし かず ひろ 大 西 一 弘
博士の専攻分野の名称	博 士 (経済学)
学 位 記 番 号	第 1 5 9 3 6 号
学 位 授 与 年 月 日	平成13年 3 月 23 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第4条第1項該当 経済学研究科日本経済・経営専攻
学 位 論 文 名	Commitment and Strategic Firm Behaviour (コミットメントと戦略的企業行動)
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 永谷 裕昭 (副査) 教 授 阿部 顕三 助教授 浦井 憲

論 文 内 容 の 要 旨

クールノーおよびベルトランの複占市場モデルは、同時手番の非協力ゲームとして理解できる。本論文は、それらのゲームに、その前段階として、さまざまな戦略的コミットメントを付け加えた完全情報2段階ゲーム（および3段階ゲーム）を分析することによって、複占企業の行動を明らかにしようとするものである。

本論文を通じて、ゲームのプレイヤーは企業1・企業2である。また、ゲームは2段階（第1章は3段階）であり、その第1段階で企業1が何らかのコミットメントを行い、第2段階でクールノー＝ベルトラン型の数量・価格決定が行われる。論文は全部で7章からなり、それぞれの章において、企業1がとりうるアクションとしてのコミットメントの集合が特定される。

企業1がとりうるコミットメントの集合にコミットメントをしないことを含めて考えることができるから、ゲームの均衡（サブゲーム完全均衡）における企業1の利潤はコミットメントが不能な場合を下回ることはない。本論文の各章において、果たして企業はコミットメントによってコミットメントを選択しない場合より高い利潤を獲得できるか、言い換えると、ゲームの均衡において企業1はコミットメントを行うかと言うことが問われる。

クールノー＝ベルトランの複占市場モデルの均衡は両企業の反応曲線の交点で示される。企業1が何らかのコミットメントを実行すると、サブゲームにおける企業1の反応曲線が変形する。それ故に、企業1は、コミットメントを操作することによって、企業2の反応曲線上の点を選択することが可能となる。これは、シュタッケルベルグ均衡と類似の現象である。本論文では、コミットメントによって、ゲームの均衡において企業1をリーダーとするシュタッケルベルグ均衡が実現できるかという問題も問われる。

両企業を、独占企業と潜在的参入企業と考えるとき、この論文の2段階ゲームは参入阻止問題と見ることもできる。本論文の最後の2章ではこの問題が扱われている。

第1章では、第1段階に、企業1が生産能力投資によるコミットメントを行い、それを観察した企業2が第2段階で同様のコミットメントを行い、第3段階でこれらのコミットメントのを既知としてクールノー・サブゲームが行われる3段階ゲームが示される。このゲームには先行研究があるが、本論文では、均衡を図によって分析した。

第2章では、「来期値下げをするなら、今期の顧客に値下げ分を払い戻す」という契約による価格保護戦略において、その契約項目に、払い戻し率という1つの変数を追加して、コミットメントの集合とした。本章では、第1期の企業1の価格はすでに決定したものとして、第2期における反応曲線と払い戻し率の関係を論じた。

第3章では、第2章の2期間モデルを（1期間）2段階ゲームに変更した。すなわち、第2章では両企業は今期と来期の2期間にわたって生産・販売を行うとされたのであるが、本章では生産・販売は1度限りとされた。払い戻しを受けるのは財を購入する同じ消費者である。ゲームの第1段階で、企業1は価格と払い戻し率を宣言する。第2段階はベルトラン・サブゲームである。企業1のベルトラン均衡価格が、シュタッケルベルグ均衡価格より低いときにはゲームの完全均衡としてシュタッケルベルグ均衡が達成されることが示された。

第4章では、生産量と労働雇用量は比例すると仮定される。第1段階で企業1は生産量を宣言し、また、その生産量に見合った以上の生産をする場合、増加分に対応する労働にはより高い賃金を支払うことを宣言する。第2段階はこの宣言を既知として、ベルトラン・サブゲームが行われる。一定の仮定の下で、シュタッケルベルグ均衡が達成されることが示された。

第5章では、コミットメントの集合として、生産能力投資（第1章）と価格保護（第3章）の両方を仮定した。ただし、両方を同時に実行することはできないものとした。第2段階はベルトラン・サブゲームである。両企業が供給する財に対する需要の連関性と、両企業の反応曲線で表される戦略的連関性によって分類される4つ代表的なケースのそれぞれについて、均衡において実現されるコミットメントの種類は一意的であることが示された。

第6章では、コミットメントの集合として終身雇用契約戦略が考えられた。第2段階がクールノー・サブゲームのものとベルトラン・サブゲームのものの2つのゲームが考察される。それぞれのゲームについて、両企業間の戦略的連関性により2つ場合を考える。本章では、これらの組み合わせによる4つのケースにおける参入阻止を分析した。

第7章では、コミットメントの集合として、賃金増額契約（第4章）と終身雇用契約（第6章）を採用し、既存企業による潜在的参入企業の参入阻止の問題を分析した。第2段階として、クールノー・サブゲームのものとベルトラン・サブゲームのものを考えた。さらに、両企業の財に対する需要の連関性と両企業の戦略的連関性を考慮して、8つのケースを考察した。それぞれのケースについて均衡で採択されるコミットメントの種類は一意的であることが示された。また、すべてのケースで既存企業は参入を阻止することが可能であることが示された。

論文審査の結果の要旨

本論文は、戦略的コミットメントの集合を様々に特定することによって、戦略的コミットメント理論により、複占企業の行動を分析したものである。本論文で扱われた戦略的コミットメントは、生産能力投資、価格保護、賃金増額契約、終身雇用である。これらはいずれも聞き慣れた言葉であるが、そのほとんどのものについて、著者独自のモデル化がなされている。本論文は戦略的コミットメント理論の豊かな可能性を示した。よって、本論文を博士（経済学）の学位論文として価値あるものと認める。